

平成 28 年 度 自 己 評 価 表 （年度当初）

鳥取県立境高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	21世紀に生きる社会人として、生きる力と豊かな人間性を育成する。 ・多様な生徒に応じた教育課程・クラス編成等により、学力の向上と進路を実現する。 ・切磋琢磨し、自己の多様な能力・適性を発見して才能の開花を図る ・地域に信頼され、地域の期待に応え、地域を支える学校づくりをすすめる。 校訓 「文武両道」「質実剛健」	今年度の 重点目標	1. 基本的生活習慣・心身の健康管理の確立 ・挨拶の励行と掃除等の取組み指導（声かけ等）を通して、人間性やコミュニケーション能力を高め、けじめある生活態度を育成する。 ・特にS H R時の担任の話を大切に。・様々な教育活動の中で、自他を愛し、人権を尊重する意識を高め育む。 2. 学力向上による進路の実現 ・授業の大切さ（学ぶことの大切さ）と進路保障、特に授業参観等で各教科の授業研究を進める。 ・目的別クラス編成を軸にした授業内容や展開方法を工夫し、生徒が理解しやすい指導を行う。 ・明確な進路意識を持たせ、3年間を見通した指導を行う。 3. 部活動などの教育活動の振興 ・県トップレベルの実績を持つ部活動を維持育成し、学校内外に活力ある境高を発信する。 ・地域のボランティア活動に積極的に参加する。また、部活動参加をオープンにし、地域の生徒の指導にあたる。 ・生活指導と併進して教育活動をさらに活性化。・学校生活の基盤である良好な人間関係を育成し、家庭と連携して生徒の指導にあたる。
-------------------	--	--------------	---

年 度 当 初					評 価 結 果（28年度末）		
評価項目	評価の具体項目	現状（27年度の実績から）	目標（28年度の目指す姿）	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1. 基本的生活習慣・心身の健康管理の確立	○挨拶の励行、服装・清掃指導等を通して、人間性やコミュニケーション能力を高め、けじめある生活態度を育成する。 ○自他を愛し、人権を尊重する意識を高める。 ○授業開始までの学習準備を徹底する。	○頭髮服装に関する違反者はほとんどなく、全体的に守れている。遅刻に関しても、概ね良好だった。 ○より良い人間関係を築くためのソーシャルスキルトレーニングを実施し効果があった。 ○授業開始時に遅れて入室したり教科書等の準備ができていない生徒がまだ見られる。 ※「規律ある高校生活を送れた（生徒95.2%、保護者77.8%、教職員96.2%）」 ※「自他を大切にできた（生徒94.8%、保護者95.9%、教職員63.9%）」	○文化・体育活動の充実と自主活動の活性化 ○基本的生活習慣の確立 ○規則等、決まりごとの遵守と自己管理意識の向上	○生徒の自主活動を促し、生徒活動の充実を図る。 ○服装・頭髮・挨拶等について生徒の自覚を高める。 ○交通規則（法規）遵守、携帯電話・スマホ等使用上のモラルの向上を図る。 ○整理整頓、貴重品管理等、日常の生活意識の向上を図る。 ○5分前行動の徹底と授業を大切にする態度の育成			
	○環境改善や校内美化に対する意識を高める。	○ゴミの減量化や消費電力削減で大きな成果があった。環境委員等が活躍して他の生徒の意識が向上した。 ○ゴミの捨て方など一部で徹底できなかった場面もあった。 ※「校内美化（生徒85.9%、保護者75.9%、教職員63.9%）」	○健康的な生活習慣の確立 ○学校環境の整備	○健康観察等の充実と適宜声かけ等親身な指導を推進する。 ○日々の清掃活動や学校周辺清掃の徹底、ゴミの分別・減量化を引き続き推進する。（平成25年度との比較で6%減の実現）			
2. 学力向上による進路の実現	○授業研究を進め、希望する進路実現に繋がる学力を引き上げる。	○学力上位の生徒の学力を伸長させていない。○教科指導法も工夫され、生徒も応えようとする雰囲気が出てきた。 ○校外模試に対応できる学力養成がまだ不十分である。 ※「希望進路の実現（支援）（生徒64.2%、保護者84.6%、教職員60.6%）」	○研究授業と授業研究会の充実 ○放課後講習の細分化による学力に応じた指導の徹底 ○個別面接の重視と進路目標の早期具体化	○授業参観週間等を契機とした各教科代表による研究授業を実施し研究協議を深める。 ○放課後講習の細分化を具体化し、適宜受講生徒の状況を把握し、講習内容等改善を推進する。 ○主幹教諭等を中心とした個別面接を実施し、適格な進路指導を推進する。			
	○授業内容や授業展開を工夫し、生徒の理解度を高める。	○学力不振者に対するきめ細かな指導が十分できていない。 ○授業公開週間中の授業実践・研究協議が教職員のスキルアップにまだ十分とはいえない。 ※「授業理解（工夫）（生徒72.3%、保護者73.9%、教職員54.5%）」	○生徒一人ひとりの良さを活かし、伸ばす個別指導の徹底 ○生徒の理解度を深める授業改革の推進 ○外部人財（人材）の活用	○教科担当を中心とした情報の共有化を促進し、随時面談等個別指導に活かす。 ○アクティブラーニング等授業法の研修を重ね実践に活かす。 ○外部講師等による出前授業を契機とし、学習意欲を高める。			
	○3年間を見通した指導により、日々の学習習慣を確立させる。	○一日2時間以上の家庭学習時間をしている生徒は全体では43.1%であった（習熟クラスでは97.6%）。（27年11月調査） ○年間を通して実施する週間けテスト（毎週月曜日実施）で、好成績を維持し、学習のモチベーションを高めた生徒も多かった。 ○提出を義務づけられた課題等には取り組むが、自ら進んで学ぶ姿勢が今後も求められる。 ※「家庭学習できている（生徒60.6%、保護者52.3%、教職員21.2%）」	○適明けテストをはじめ校外模試等を大切にする態度の育成 ○自発的な学習活動の確立 ○学習段階や進路に応じた教科指導の徹底	○模試対策を取り入れ、受験に対する意識を高める。 ○目的別クラス編成に応じた授業展開を推進し、ノート点検・副教材・小テスト等を多角的に授業に取り入れ、授業を基軸とした学習習慣を確立する。 ○1年次生では高校での基礎学力の定着、2・3年次生では基礎力定着を確認しながら、進路希望に応じた応用力をつける指導を進める。			
3. 部活動などの教育活動の振興	○個々の能力や適性を発揮し、多くの部活動が全国大会等で活躍することで、学校の活力を高める。	○全国大会出場者は70人。（ハンドボール ヨット 陸上 吹奏楽 写真 将棋） ※「部活動充実（生徒92.5%、保護者92.4%、教職員88.9%）」	○全国大会出場者100名以上 ○部活動充実による学校活力の向上	○主幹教諭等を中心とした部活動と学習活動の両立を図り、部活動だけに偏るような生徒については意識変容を図る。 ○施設・設備等の充実を推進し、部活動にしっかり取り組める教育環境を整える。			
	○小・中・高・大の連携により、人的交流や授業連携・研究交流を充実させ、教育活動の活性化を図る。 ※教科でつながる「鳥取発スクラム教育」 ※スクールプロジェクト（小学生との交流事業） ※中高連携学力向上プロジェクト	○スクールプロジェクトは10周年を迎え、文部科学大臣表彰を受賞した。今後も地元小学生に呼びかけ、地域で児童生徒を育てる実践を重ねたい。 ○小中学生との交流・学習指導が境高生自身に良い影響を与えている。 ○鳥根大学等への大学訪問は大きな刺激となって進路意識・学習意欲の向上につながった。 ※「スクールプロジェクト、中一・中三学習会（生徒81.2%、教職員88.6%）」 ※「大学等連携（大学訪問・出前授業等）（生徒93.3%、教職員88.6%）」 ※「英語多読（生徒71.4%）」	○高大連携（大学・専門学校訪問など）や高産連携（企業訪問など）の展開 ○小高連携（スクールプロジェクトなど）や中高連携（中学1年生学習会・中学3年生学習会）の充実 ○スクラム教育等異校種間の教職員連携の充実	○異校種間連携では、異校種の児童・生徒・学生等と関わることで、高校生にとって自分を見直す良い機会となっているので、引き続き推進する。 ○スクラム教育等の完成年度でもあり、内容については充実・深化を図るが、スクラム教育等校内独自の取組も推進する。			
	○P T A、同窓会等とも協力して、地域活動へ積極的に参加し、地域から期待される学校づくりを進める。	○生徒の活躍やP T Aの活動を随時H Pに掲載できてきた。 ○校外での活動（地域連携）充実も進んできた。 ※外部連携（教職員80.6%）」 ※H P更新（保護者70.4%、教職員64.7%）」	○学校ホームページの充実（学校行事・P T A活動など生徒や保護者の姿が見えるH Pづくり） ○部活動等による地域貢献の展開	○学校の情報を速やかに学校H Pに掲載し、情報発信を展開する。 ○上道小学校と吹奏楽部との交流、理科実験を上道公民館こども会で実践など地域の要望に応える学校作りを推進する。			

評価基準 A:十分達成[90%以上] B:概ね達成[80%程度] C:変化の兆し[60%程度] D:まだ不十分[50%程度] E:目標・方策の見直し[40%以下]
（※数値は「生徒・保護者・教職員アンケート」結果の「良かった」等の割合）